

平成23年度

## ”大雪・富良野ルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称:大雪・富良野ルート		報告者:大雪・富良野ルート 副代表 北島 滋・佐々木 淳(代表不在のため)					2012/3/31		
ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括	
大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、親しむ	北海道らしい雄大な景観を美しく見せる	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名	T-1	毎年、実施している取り組みを継続して行うことが出来ており、継続的に行うことで参加者の増加や意識づくりが進んできている。新たな取組みとして、見晴台公園の改修にあたり、住民対象のワークショップを上富良野町と連携して実施。景観の重要性を認識することが出来、参加者には意識の醸成が図れている。	
	大雪山・十勝岳連峰への眺望性を高めるために、阻害要因の除去や道路施設の整備を行う	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名	T-1		
	ビューポイントを整備して大雪山・十勝岳連峰の眺めを楽しめるようにする								
	大雪山・十勝岳連峰への眺望性を確保するためのルールの整備を進める	★2	見晴台公園の改修に関わるワークショップを開催	大雪・富良野ルートサポートセンター	11月～3月(WS:4回開催)	主催者約5名 一般約20名			
景観づくり 波状丘陵地の田園景観を保全する	田園景観保全のための仕組みを観光と関連を持たせながら検討する	3	各種オーナー性の実施	赤妻の会、深山峠観光開発振興会、かみふらの十勝岳観光協会	通年			新たな活動については不足しているが、継続的に実施している活動は安定して実施。ラベンダーや赤妻、じゃがいもなどのオーナー制が、各地で取り組みが今なお長期的に継続されていることは評価できる。また、昨年本格に展開している西神楽の情報拠点の農業者として、直売所・カフェは、ビジネス化が進んでいる。	
	田園景観を保全するためのルールなどの検討を行う								
	田園景観を整えるためにさまざまな農業施設を景観にも配慮されるようにする	4	情報拠点・夢民村「直売カフェMuu」を運営	西神楽 夢民村	通年	—			
花人街道としての景観を整える	地域の原風景としての景観を保全するための研究を行う							当ルートは「花」の充実が重要であり、これについては毎年、継続して実施している。花以外にも、花人街道としての景観を形成する要素は様々あり、ワークショップにおいても、見晴台公園を中心とする花演出などについても、検討された。	
	沿道の関係地域全体で花による沿道景観の演出を行う	5	花の植栽活動	NPO法人グラウンドワーク西神楽、東川町花俱樂部、深山峠観光開発振興会、上富良野町商工会	5月～6月	主催者約10名 一般約290名			
	花人街道として田園部、市街地を含めた景観形成の方針を検討する	★2	見晴台公園の改修に関わるワークショップを開催	大雪・富良野ルートサポートセンター	11月～3月(WS:4回開催)	主催者約5名 一般約20名			
	沿道の景観阻害要因に対しての修景計画の策定を行う	★2	見晴台公園の改修に関わるワークショップを開催	大雪・富良野ルートサポートセンター	11月～3月(WS:4回開催)	主催者約5名 一般約20名			
	森林景観を保全するための活動計画の策定を行う								
活力ある地域づくり	ルート全体の情報共有化と連携の強化を図る	6	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)	—	T-2	今年度は、空港でのパネル展をはじめ実施することができた。地域全体の観光活性化、元気な地域づくりに寄与することができた。また、ウィンターサーカスは国内のメディアからも注目を浴び、様々な媒体に掲載され、冬期の観光活性化に繋がった。観光による地域活性化をさらに推進する。	
	地域の情報発信力を強化し、情報媒体の多彩化を図る	7	情報拠点にてバリアフリーマップや観光パンフレット等を配布	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)	ルート内情報拠点3箇所、上川道の駅約10箇所			
	地域住民参加への活動を強化する	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名		T-1
		情報拠点での地域情報発信	8	情報拠点での地域情報発信	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)	—		
		大雪・富良野ルートパネル展の実施	★9	大雪・富良野ルートパネル展の実施	大雪・富良野ルートルート運営行政連絡会議	8月20日～8月28日 1月21日～2月12日	2回		T-3
		ウィンターサーカスの開催	10	ウィンターサーカスの開催	ウィンターサーカス実行委員会	2月11日～12日	主催者側約20名 一般約3000		T-4
コリドーとしての連携や参加意識の醸成	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名	T-1	継続して実施している「ゴミゼロ」などを通して、地域の方の参加意識を醸成すること出来ている。また、空港のパネル展により、多くの方にルートの魅力を発信することが出来た。今後も、具体的な取り組み・充実した情報発信を継続し、連携意識のさらなる向上を目指す。	
	大雪・富良野ルートパネル展の実施	★9	大雪・富良野ルートパネル展の実施	大雪・富良野ルートルート運営行政連絡会議	8月20日～8月28日 1月21日～2月12日	2回	T-3		
	各種キャンペーンの立案によって参加意識を高める	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名	T-1		
地域づくり 農業・観光・商業の連携と協働による地域づくり	安全な地域農産物の魅力を情報として発信する	11	西神楽と上富良野の情報拠点にて、地域農産物を販売	西神楽夢民村、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月			農業生産法人である西神楽 夢民村を中心にさまざまな取組みを実施している。都市と農村との交流を目的とした農園制度、直売所による販売、レストランなどを実施。上富良野では、商工会中心の農産物を活用した商品開発も実施しており、農村地域として具体の取り組みを推進している。今後もさらなる農業と観光の連携充実を図る。	
	農業体験観光を通して地域の魅力を紹介する	12	休耕地を活用した農地オーナーの試験実施	西神楽 夢民村	8月上旬～10月	一般10名			
	地域の様々な分野の業界と資源を活用し総合力を高める	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	1	沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	主催者約20名 一般約180名		T-1
		冬季集住 高齢者サービスの検討	13	冬季集住 高齢者サービスの検討	NPO法人グラウンドワーク西神楽	10月～2月	冬期集住:8名		
	上富良野産の農産物をつかった加工品・商品の検討	14	上富良野産の農産物をつかった加工品・商品の検討	237花俱樂部	通年	—			

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称:大雪・富良野ルート		報告者:大雪・富良野ルート 副代表 北島 滋・佐々木 淳(代表不在のため)					2012/3/31			
ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括		
地域の自然・文化・歴史を共通の資産として保全活動を推進	多面的で魅力のあるルートの開発と紹介を行う	13	冬季集住 高齢者サービスの検討	NPO法人グラウンドワーク西神楽	10月～2月	一般:高齢者8名		地域の自然や文化の保全に関する取り組みは、一部の活動団体の取り組みが大半であり、ルート全体として一体となった取り組みへの展開は、まだまだ不足している。今年度は、具体的に「冬の森で遊ぼう!誰でもソト遊び体験」を実施するなど、具体的な取り組みも進めている。地球温暖化対策など、ルートとしても地域で出来る自然や文化の保全・活用を推進する。		
		10	ウィンターサーカスの開催	ウィンターサーカス実行委員会	2月11日～12日	主催者側約20名 一般約3000名	T - 4			
	地域の自然・文化・歴史を活用した教育プログラムを推進する	15	旭岳の管理	大雪山自然学校(NPO法人ねおす)	5月～11月	—				
		16	子供向けの自然教室を実施	大雪山自然学校(NPO法人ねおす)	通年	—				
		★17	冬の森で遊ぼう!誰でもソト遊び体験の実施	大雪・富良野ルートサポートセンター・大雪山自然学校(NPO法人ねおす)・旅とびあ北海道	1月28日	一般:障がいのある子供4名、親1名	T - 6			
		18	ウィンターサーカスと連携した雪の授業を開催	ウィンターサーカス実行委員会	西神楽:1月31日 上富良野:2月11日	一般:児童40名	T - 5			
	ユニバーサルデザインの推進	シーニック活動団体、行政などへのユニバーサルデザインの提案を行う								情報拠点にてユニバーサルデザインの「ユニカップ」の販売・PRを実施するとともに、北西の丘の情報拠点では、内部の写真展示自身がユニバーサルデザインに配慮されている。今後は、外国人旅行者も利用しやすいユニバーサルデザインを考える必要がある。
		地域におけるユニバーサルデザインの啓蒙活動を行う	19	ユニバーサルデザインを取り入れた情報拠点の設置・運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター	5月～11月	—			
	観光振興	田園型リラクゼーション観光の充実	10	ウィンターサーカスの開催	ウィンターサーカス実行委員会	2月11日～12日	主催者側約20名		T - 4	ウィンターサーカスは7回目を迎え、参加者も増加している。冬期観光の柱になりつつある。また、情報拠点も定着しつつあり、利用者も増加傾向にある。今後は形になりつつあるルート観光の展開として、着地型観光の取り組みも検討したい。
			6	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)			T - 2	
農業と連携した観光のしくみづくり		11	来訪者と農産生産者をつなぐしくみを検討する	西神楽と上富良野の情報拠点にて、地域農産物を販売	西神楽夢民村、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月		西神楽を中心として農業と都市、人をつなぐ取り組みを展開している。生産者と旅行者をつなぐ情報拠点「Muu」はコミュニティビジネスとしての「芽」ができており、今後期待できる。西神楽の成功事例を参考に、さまざまな地域で農業を中心とした元気な地域づくりを進める。地域の特産品開発については、昨年にひきつづき、上富良野で実施しており、今年度は「コロッケ」を開発した。また、ラベンダーや赤麦、じゃがいもなどのオーナー制が、継続的に行われており、地域農業と観光をつなぐ取り組みとなっている。		
		11	地域の農産物の新たな流通ルートを検討する	西神楽と上富良野の情報拠点にて、地域農産物を販売	西神楽夢民村、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月				
		6	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)		T - 2			
		13	冬季集住 高齢者サービスの検討	NPO法人グラウンドワーク西神楽	10月～2月	一般:高齢者8名				
シーニックランドオペレーション機能の充実		シーニックバイウェイの情報網と発信機能を充実させる	3	各種オーナー性の実施	赤麦の会、深山峠観光開発振興会、かみふらの十勝岳観光協会	通年				
			6	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月 (一部通年)		T - 2		
		シーニック情報中核機能を充実させる							ルート運営では、ルート活動資金の獲得のためルート法人が補助や助成の申請を積極的に行っているが、まだまだ、専任のスタッフの雇用などには至っていない。今後も、ルート活動推進を目的に、体制づくり・人づくりを進めていく。	

# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：沿道の清掃活動 ゴミゼロキャンペーン

【概要】平成17年度「集中活動月間」の活動としてはじまった「ゴミゼロキャンペーン」は、沿道の清掃活動を広域で連携して実施する活動。平成23年度で7回目の開催。毎年、4月下旬から5月30日までをキャンペーン期間として、旭川や上富良野で関係行政とも連携し、清掃活動を実施している。毎年約200人以上が関わっている。

【日時】西神楽：4月25日（月）、上富良野町：5月8日（日）

【場所】西神楽、上富良野 国道237号沿道

【主催】大雪・富良野ルート

【参加人数】約200人



# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：情報拠点の運営

- 【概要】 西神楽・美瑛・上富良野の全3箇所にシーニック情報拠点を開設。各地では、大雪・富良野ルート内のパンフレット等の配布のほか、地元の農産品のPRなどそれぞれ特徴的なサービスやビジネスを展開。西神楽の情報拠点では、地元農産物（夢民村）のレストランや直売を行っており、情報拠点のコミュニティビジネスとしても、可能性が見えてきている。
- 【日時】 通年
- 【場所】 西神楽、美瑛（北西の丘）、上富良野（見晴台公園）
- 【主催】 西神楽：夢民村、美瑛：循環型社会立案サポートセンター、上富良野：かみふらの十勝岳観光協会



# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：大雪・富良野ルートパネル展の実施

- 【概要】 空と道がつなぐ観光PRの一環として、「シーニックバイウェイ北海道大雪・富良野ルートパネル展」を旭川空港で実施。本パネル展は、旭川市及び旭川空港ビル(株)の協力を得て、旭川開発建設部が中心となり実施。「がんばろう！日本がんばろう！北海道」をキャッチフレーズに、東日本大震災の影響等も含め道内観光客が減少する中、空港の利用客に上川管内の観光をPRすることで、北海道内だけでなく日本全体の観光の回復に資することを目的に実施。
- 【日時】 夏期：8月20日～8月28日 冬期：1月21日～2月12日
- 【場所】 旭川空港
- 【主催】 旭川開発建設部・大雪・富良野ルート



# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：ウィンターサーカスの開催

- 【概要】 第7回目となる雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」を開催。今回は、東神楽町とも連携し、ルート内6会場・高速道路会場1会場で開催。各会場では温かい飲食の提供を行い、旭川や札幌発着のバスツアーなどを実施した。
- 【日時】 2月11日～12日 17:00～20:00
- 【場所】 旭川市西神楽、東神楽町、美瑛町 上富良野町（2会場）、占冠村、道央自動車道砂川SA
- 【主催】 シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート ウィンターサーカス実行委員会
- 【参加人数】 約3000人



ウィンターサーカス 会場数・参加者概算



# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：ウィンターサーカスと連携した雪の授業を開催

【概要】西神楽ではじまり今年で7年目を迎える冬を楽しむアートプロジェクト“ウィンターサーカス2012”（ランドアート制作）とあわせ、北海道の地域資源である雪をテーマとした“学び”と“アート”を実践するワークショップを開催。ワークショップで制作したアート作品を“雪のアート展”と題し展示する。

【日時】西神楽：1月31日 東神楽：2月4日 上富良野：2月11日

【場所】西神楽聖和小学校、東神楽（募集型）、上富良野（募集型）

【主催】ウィンターサーカス実行委員会

【参加人数】西神楽：20人 上富良野：24人



# 大雪・富良野ルート

Taisetsu/Furano Scenic Byway

活動名：冬の森で遊ぼう！誰でもソト遊び体験の実施

【概要】 心身の障害の有無にかかわらず、森の中で雪遊びを体験することを目的に、ソト遊びを通して、新しい子供達（大人達）と交流するツアーを開催。障がいのある子供と親・家族と一緒に雪あそびを楽しむ半日ツアーとした。

【日時】 1月28日

【場所】 キトウシ森林公園

【主催】 大雪・富良野ルートサポートセンター・大雪山自然学校（NPO法人ねおす）・旅とびあ北海道

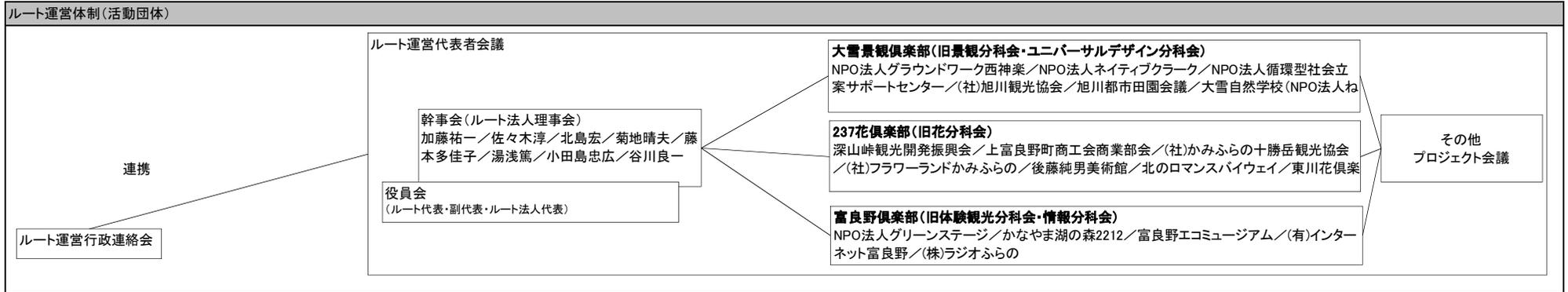
【参加人数】 障がいのある子供4名、親1名



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:大雪・富良野ルート 副代表 北島 滙 ・佐々木 淳(代表不在のため)	報告年月:2012/3/31
-----------------	--	----------------

活動団体  
 NPO法人グラウンドワーク西神楽/NPO法人ネイティブクラーク/NPO法人循環型社会立案サポートセンター/深山峠観光開発振興会/上富良野町商工会商業部会/NPO法人グリーンステージ/(社)かみふらの十勝岳観光協会/(社)フラワーランドかみふらの/かなやま湖の森2212/富良野エコミュージアム/(有)インターネット富良野/北のロマンスバイウェイ/東川花倶楽部/(社)旭川観光協会/(株)ラジオふらの/旭川都市田園会議/後藤純男美術館/大雪自然学校(NPO法人ねおす)/西神楽 夢民村 全19団体



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議								● 11/22					活動団体が集まる会議が減っており、情報共有が不足している。今後は、新たな団体の加入も含め、会議等から活性化を図る。現在は、ルート代表が不在のため、新たな代表の選出も含め、組織の見直し・改善を進める。
	役員会													
	運営委員会													
	大雪景観倶楽部	● 4/25コミゼロ												
	237花倶楽部	● 4/22	● 5/8コミゼロ											
	富良野倶楽部													
	その他 ●ウインターカス 会議				● 7/23報告会		● 9/8セミナー	● 10/18	● 11/10	● 12/6	● 1/17			

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2012/3/31
-----------------	-------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営行政連絡会議								● 11/22					

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2012/3/31
-----------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成21年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観づくり	大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、親しむ	道路付属物の集約・配置替え、樹木の剪定	通年	旭川開発建設部	旭川開発建設部は、ルート内の景観に配慮した、標識の集約・小型化、設置数の改善、デザイン、色の統一を実施。今後も継続した検討と実施が必要。	道路行政として実施できる取り組み、関係機関との協働で行う取り組みなどを役割を明確にし、シーニック活動を推進する。関係機関との連携を強化し、広がりを持たせるように工夫しつつ、出来る支援の可能性を関係団体等と検討する。活動に参加していない団体へは、シーニックバイウェイなどの情報共有などを行い、ルート活動の推進も同時に行う。		
	波状丘陵地の田園景観を保全する	ゴミゼロキャンペーンへのゴミ袋や火ばさみ、ゴミ処理の支援、活動への参加	西神楽:4月25日(月) 上富良野町:5月8日(日)	旭川開発建設部・旭川運輸支局・上川総合振興局旭川建設管理部・旭川市・上富良野町	旭川開発建設部は、ゴミゼロキャンペーンへの協力として、ゴミ袋の提供や火ばさみの貸し出し、ゴミの処理を実施し、左記機関とともに清掃活動も参加した。ゴミゼロキャンペーンへの総参加人数は、200人を超える取り組みとなった。さらに広域への展開を検討し、地域と連携し取り組みを推進する。			
	花人街道としての景観を整える	花の植栽活動への用具貸し出し、苗の提供などの支援	5月～6月	旭川開発建設部・東川町・上富良野町	左記機関は、沿道の花植栽への協力として活動への参加とともに、旭川開発建設部は、用具の貸し出し等、東川町・上富良野町は、花の苗等の提供を行った。花植栽により、良好な沿道環境を保つことができ、来訪者からも好評であった。今後は、地域との連携を強化し、継続した取り組みに向けての検討などを行う。			
地域づくり	活力ある地域づくり	ウィンターサーカスのランドアート制作協力	2月11日(土)～12日(日) 17:00～20:00	旭川開発建設部・上川総合振興局・旭川市・東神楽町・美瑛町・上富良野町・占冠村	旭川開発建設部は、ウィンターサーカスへの協力として、ランドアートに使用する雪の提供や会場周辺の除雪などの支援を行い、スムーズに活動を実施することができた。上川総合振興局は、道職員への情報発信等を実施した。	シーニックバイウェイに参加している団体との連携を強化し、官民連携による具体的な成功事例の積み上げを目指す。ウィンターサーカスについては、冬期観光の活性化の他、若いアーティストと地域の交流による地域活性化も期待でき、交流人口の拡大ができています。シーニックの拡大の他、各団体・地域が実感できる成果を共有できるように、地域団体等とともに取り組みを進める。		
		ウィンターサーカスと連携した雪の授業への協力	西神楽:1月31日 上富良野町:2月12日	旭川開発建設部・上川総合振興局・旭川市・上富良野町	旭川開発建設部は、雪の授業として取り組みへの参加や関係への調整等を行うことで、地域イベントへより多くの方が参加することができた。			
	コリドーとしての連携や参加意識の醸成	★大雪・富良野ルートパネル展の実施	8月20日～8月28日 1月21日～2月12日	旭川開発建設部	旭川開発建設部は、空港で大雪・富良野ルートパネル展を実施し、たくさんの方にシーニックバイウェイの風景や取り組みをPRできた。			
		ウィンターサーカスのパネル巡回展を実施	1月～2月	旭川開発建設部・上川総合振興局旭川建設管理部・旭川市・富良野市・東川町・東神楽町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村	旭川開発建設部は、左記機関と調整し、ウィンターサーカスのPRパネル展を、旭川空港、JR旭川駅、道の駅あさひかわ、道の駅ひがしかわ「道草館」、道の駅ひえい「丘のくら」、道の駅南ふらの、道の駅自然体感しむかつぶ、フクロマルシェ、旭川開発建設部、地方自治体庁舎等で開催し、多くの方にウィンターサーカスをPRできた。			
		ウィンターサーカスへのプロジェクター貸し出しなどの支援	2月11日(土)～12日(日) 17:00～20:00	旭川開発建設部・上川総合振興局・旭川市・東神楽町・美瑛町・上富良野町・占冠村	旭川開発建設部は、雪のランドアートに投影するために使用するプロジェクター等の貸し出しを行った。プロジェクターの貸し出しや左記機関のイベントへの参加など、できる範囲の支援を行うことで連携体制が強化された。			
		地域の自然・文化・歴史を共通の資産として保全活動を推進						
		ユニバーサルデザインの推進						
	田園型リラクゼーション観光の充実							

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2012/3/31
-----------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成21年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
観光	農業と連携した観光のしくみづくり						
	シーニック・ランドオペレーション機能の充実	★ 地域情報ペーパーの発行・配布	7月～	上川中南部道の駅連携会議・旭川開発建設部	旭川開発建設部は、大雪・富良野ルートのイベント情報などをPRし、誘致を図るために上川中南部道の駅連携会議と連携して地域情報ペーパーを発行・配布した。配布先は、道の駅及び情報拠点等。道の駅関係者からも大変好評であった。	北海道でも人気の観光地である富良野・美瑛を含むルートであることから、それぞれのプランを活かしつつ、新たな観光客、リピーター獲得のために、さまざまな情報発信について協力を行っている。	
		道路情報板を活用したルートPR	通年	旭川開発建設部	旭川開発建設部は、表示優先度を考慮し、ルート名等の表示はしていなかった。今後は、イベント開催に伴う交通状況等について表示を検討したい。		
		ルートHPへのリンクを実施	通年	旭川開発建設部・上川総合振興局旭川建設管理部・旭川市・富良野市・東神楽町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村	左記機関は、ルートのホームページへのリンクを各々のホームページに掲載し、ルートのホームページPRに協力した。		

※表中“★”は、H22新規に実施した活動

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:大雪・富良野ルート 副代表 北島 滋 ・佐々木 淳(代表不在のため)	報告年月:2012/3/31
-----------------	--	----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>・ブランド形成をとしては、冬期にはウィンターサーカスを開催し、新たな冬の観光ブランドとして育てている。それに合わせて、官民が協働しながら取り組みを進めており、それぞれの得意分野でのブランド化も推進している。ウィンターサーカスにおいては、地域の小学生を対象とした雪のワークショップも好評であり、子供にもシーニックバイウェイの理解を進めている。</p> <p>・人材については、民間企業・道の駅との具体的な連携も進んでおり、多様な人材ネットワークが構築されつつある。このネットワークを活かし、シーニックのさらなる展開・取り組みの拡大を目指す。他地域との交流も、支笏洞爺二セコルートの他、十勝シーニックバイウェイとも進んでおり、今後、さらなる交流・情報共有を目指し、ルート間連携を具体的に進める。</p> <p>・シーニックも次年度で7年目となることから、理念の再確認、計画の見直し、活動の活性化を目指す。</p>	

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2012/3/31
-----------------	-------------	----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>・PRや広報として、旭川空港をはじめ、JR旭川駅、ルート内道の駅などさまざまな場所でパネル展を実施している。また、道の駅とシーニックバイウェイが連携した、地域情報ペーパーとして、毎月のイベント情報を掲載したニュースレターを発行し、道の駅等で配布しており、好評を得ている。</p> <p>幅広い機関からの支援として、上川総合振興局等を含め、ルート運営行政連絡会議の活性化を次年度の目標として掲げ、活動を推進する。</p> <p>地域ではルート間連携も少しずつ進んでいるようであるが、行政連絡会議としても、他地域との連携を推進する。</p> <p>官民連携の成功事例については、他地域の成功事例を収集しつつ、ルート内の成功事例も関係機関と共有し、本当の意味での官民連携のシーニックを目指す。</p>	